

【テーマ1】 多彩な都市の魅力があふれ、楽しく快適に過ごせる大阪

めざす方向

◎「大阪都市魅力創造戦略 2020」に基づき、「世界中から人、モノ、投資等呼び込む『強い大阪』、「世界に存在感を示す『大阪』」の実現をめざします。

(中長期の目標・指標)

※大阪都市魅力創造戦略 2020 に掲げた主指標（平成 32 年度までに目指す目標）

- ・来阪外国人旅行者数 1,300 万人
- ・来阪外国人旅行消費額 1 兆 1,900 億円
- ・国際会議開催件数 340 件
- ・延べ宿泊者数 3,600 万人
- ・府内外から人々が集まり、芸術活動が活発になっていると思う府民の割合 40%
- ・文化的環境が整備されていると思う府民の割合 40%
- ・大阪にゆかりのあるプロスポーツ7チームの年間主催試合での観客者合計数 360 万人
- ・成人の週 1 回以上のスポーツ実施率 50%

大阪全体の都市魅力の発展・進化・発信

| <今年度何をするか（取組の内容、手法・スケジュール等）> | <何をどのような状態にするか（目標）> | <進捗状況（H30.3月末時点）> |
|---|---|---|
| <p>■世界第一級の文化・観光拠点形成・発信</p> <p>・水と光のまちづくりの推進</p> <p>◆公民共通のプラットフォーム「水都大阪コンソーシアム（*1）」による水辺・水上の魅力創出・にぎわいづくりの推進</p> <p>（スケジュール）</p> <p>通 年 舟運事業者・関係者とのネットワーク形成、強化</p> <p>29 年 10 月 「水都大阪フェス（仮称）」の開催</p> <p>◆北浜・中之島東部エリアでの水辺のにぎわい空間創出のための施設整備</p> <p>（スケジュール）</p> <p>30 年 2 月 アート空間など整備工事完了</p> <p>◆八軒家浜を核とした舟運拠点空間（観光・クルーズ拠点）の創出に向けた環境の整備</p> | <p>◇活動指標（アウトプット）</p> <p>・多くのプレイヤーの参画のもとに、水の回廊を中心とした水辺拠点等をつなぐクルーズの開発など、魅力ある舟運の創出等</p> <p>・水辺のにぎわいづくりなど水都の魅力を結集、発信する事業として、「水都大阪フェス（仮称）」の開催</p> <p>・船から見える景色、船が行き交う景色を意識したアート空間などの整備</p> | <p>○魅力ある舟運の創出に向け、民間のアイデアやノウハウを活用するため、「水都大阪舟運創造推進事業」の受託者を公募し、魅力発信、ナイトクルーズ、にぎわい創出の 3 事業を実施（11～3 月）</p> <p>▶ ○「水都大阪フェス 2017（10 月 7～29 日）」を開催した。なかでも 14、15 日は、水上・水辺を楽しめるイベント、クルーズ等を中之島公園周辺で集中して開催（一部プログラムは雨天により中止）</p> <p>○北浜・中之島東部エリアでの水辺のにぎわい空間創出事業として、船寄施設及びアート空間整備工事を実施中（H30 年 7 月供用開始予定）</p> |

(スケジュール)

30年2月 基本計画策定

・万博記念公園の魅力創出

- ◆「太陽の塔」耐震工事及び内部公開にむけた取組みの推進
- ◆太陽の塔の内部公開に向けての機運醸成のため、寄附金を募集
- ◆入場者数増加に向けた取組みの推進
園内事業者間の連携や広報・イベントの積極的展開等の取組みをすすめる

・百舌鳥・古市古墳群(*2)の魅力創出

平成22年に世界遺産暫定一覧表に記載された「百舌鳥・古市古墳群」の世界文化遺産登録の早期実現に向けた取組みを進める

・八軒家浜を舟運拠点空間とするための基本計画策定など、多種多様なクルーズの創生に向けた検討

◇成果指標 (アウトカム)

(定性的な目標)

- ・水都大阪の更なる「成長」へ向けた取組みを着実に推進 (数値目標)
- ・舟運利用者数 (平成31年度 100万人に向け)
平成29年度: 90万人
(平成28年度: 86万人)

◇活動指標 (アウトプット)

- ・内部展示の公開 (平成30年3月) に向けた機運の醸成
- ・事業者間の連携や広報・イベントの積極的展開

◇成果指標 (アウトカム)

(定性的な目標)

- ・「人類の進歩と調和」をテーマとし 1970年万博のシンボルであり、万博記念公園のシンボルである「太陽の塔」の耐震改修及び内部展示の再生・公開を行い、文化的価値を高めるとともに、後世に継承していく (数値目標)
- ・寄附金募集目標額: 6千万円
(H28・H29の2年間で総額1億円、
H28年度: 約4千万円)
- ・自然文化園の入場者数 230万人以上
(平成28年度: 220万人)

◇活動指標 (アウトプット)

- ・平成29年度の国内推薦獲得に向け、地元や首都圏における機運の醸成を図り、世界文化遺産登録の早期実現に向けた取組みを進める

○八軒家浜を舟運拠点空間とするなど、舟運活性化に向けた基本構想の検討を行った (10月～3月末)

○舟運利用者数

平成29年度 120万人 (見込み)

○「太陽の塔」耐震工事及び内部展示制作は3月上旬に完成。3月18日に記念イベントを行い、3月19日から内部公開を開始

○寄附金募集については、様々な広報PRを展開し、機運の醸成に努めた結果、当初目標の1億円を上回る約1億6千万円の申込があった

○公園イベントと園内各施設との連携を図るなど、入園者の増加に取組み、自然文化園の目標入園者数230万人には達成しなかったものの、前年度比5万人増となる225万人以上を達成した。

○大阪市内でシンポジウムを開催
(参加者550名)(5月)

○りそな銀行のATM画面を活用したPR(5月)

○府と3市の首長及び超党派からなる国会議員連盟で文部科学大臣及び文化庁長官に対し要望(6月)

○JR山手線の車体広告による首都圏でのPR(7月)

○国の文化審議会世界文化遺産部会において、平成

(スケジュール)

29年3月 文化庁へ推薦書原案提出
 5月 世界文化遺産登録推進シンポジウムの開催
 7月上旬 首都圏での広報活動
 7月下旬 国内推薦候補決定

- ・ストーリー性をもたせた大阪魅力の再編集・発信
 大阪の魅力スポットやそれらを巡るルートをストーリー性を持たせて再編集し、地域における観光資源の磨き上げや受入環境の整備等を支援する「大阪ストーリープロジェクト事業」を実施する

(スケジュール)

29年5月末 ストーリー素案作成
 7月末 補助対象の公募、決定
 30年3月末 補助事業完了

- ・大阪観光局の活動を支援し、戦略的に観光集客を促進
 大阪観光局が実施する国内外での戦略的なプロモーション、Wi-Fi 環境の整備拡大、観光情報の発信など、集客促進に向けた活動を支援するとともに、国の地方創生推進交付金を活用して、観光データの収集・マーケティング強化等の「大阪版 DMO(*3)」としての機能強化を推進することで、戦略的に観光集客を促進

(スケジュール)

通年 プロモーション実施、Wi-Fi 環境の整備拡大、各種データ収集、マーケティング等を実施

◇成果指標 (アウトカム)

(数値目標)

- ・平成31年度の世界文化遺産登録をめざす

◇活動指標 (アウトプット)

- ・ストーリーの検討、創出
- ・ストーリーを構成する魅力スポットへの補助制度を創設

◇成果指標 (アウトカム)

(定性的な目標)

- ・国内外からの集客・周遊性の向上をめざした環境整備
- (数値目標)
- ・構築するストーリー数：2ストーリー以上

◇活動指標 (アウトプット)

- ・国内外プロモーションの実施、Wi-Fi 拠点の拡大、マーケティング情報のデータベース化

◇成果指標 (アウトカム)

(定性的な目標)

- ・国内外からの観光集客の一層の促進を図る
- (数値目標)
- ・来阪外国人旅行者数：1,045万人
 - ・延べ宿泊者数：3,275万人

- 29年度の国内推薦候補に決定(7月)
- 府と3市の首長及び国会議員連盟で文部科学大臣(8月・2月)及び外務大臣政務官(2月)を訪問
- ユネスコに推薦書(暫定版)を提出(9月)
- ユネスコに推薦書(正式版)を提出(1月)

- 「大阪ストーリープロジェクト事業補助金」を創設し、事業を公募(7月)
 - ・6市村1団体が事業計画書(計4ストーリー)を提出(8月)

- より効果的な事業推進を促すため、大阪ストーリープロジェクトワーキンググループの場を通じ、専門的な知見を持ったアドバイザーから意見聴取のうえ、補助金交付事業を決定(計4ストーリー)(9月)
 - ・6市村1団体において事業を実施(～3月まで)

- 大阪観光局において、マーケティングリサーチに基づく国内外でのプロモーションの実施やHP・SNS・ガイドブックによる観光情報の提供など、大阪への集客の取組みを実施した
 - ・平成29年の来阪外国人旅行者数 1,111万人
(対前年比 118.2%)
 - ・平成29年の延べ宿泊者数 3,270万人
(対前年比 105.4%)
 - ・Osaka Free Wi-Fi 設置拠点数 4,909箇所
(対前年比 +360箇所)

- 大阪観光局は「日本版DMO候補法人」として、地方創生推進交付金の交付決定を受け(4月)、各種事業を実施した

- 大阪 MICE 推進委員会を発足(5月)し、同委員

| | | |
|---|--|---|
| <p>・MICE(*4)誘致の推進 「大阪におけるMICE推進方針(平成29年3月)」に基づき、大阪経済活性化につなげていくため、大阪市・経済団体・大阪観光局とともに、戦略的にMICE誘致を推進</p> <p>(スケジュール) 29年5月 大阪MICE推進委員会の立上げ</p> | <p>◇活動指標(アウトプット) ・大阪MICE推進委員会の発足</p> <p>◇成果指標(アウトカム) (定性的な目標) ・MICEを通じて、多彩な人が訪れ、集い、交流する活気あふれる都市を目指す (数値目標) ・国際会議開催件数：284件(JNTO基準)</p> | <p>会を2回開催した(5月、12月)。MICE誘致に向けて誘致ターゲットの作成やクラスターの連携強化策等について協議を行った</p> <p>・国際会議開催件数：280件(28年実績) ※平成29年実績は、9月公表予定</p> |
| <p>■多様な観光資源の発掘・発信</p> <p>・国内外の人々を惹きつけるキラーコンテンツの創出 国内外に発信できる集客装置である御堂筋を活用して、非日常的なオンリーワンコンテンツを通じて大阪の魅力を内外へ発信し、多くの方に大阪に来ていただくための起爆剤となるイベントを開催</p> <p>(スケジュール) 29年11月12日御堂筋オータムパーティー2017の実施</p> <p>・ナイトカルチャーの発掘・創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「御堂筋イルミネーション2017」と「OSAKA 光のルネサンス2017」をコアプログラムとして、民間等の実施する光のプログラムと連携して、「大阪・光の饗宴2017(*5)」を実施 ◆夜間公演等に積極的に取り組む事業者に対して、事業の立ち上げに必要な経費を支援 <p>(スケジュール) 29年6月 補助制度の創設 8月 補助対象事業の決定 11月12日～12月31日 「大阪・光の饗宴2017」の開催</p> | <p>◇活動指標(アウトプット) ・御堂筋オータムパーティー2017の実施</p> <p>◇成果指標(アウトカム) (定性的な目標) ・御堂筋を国内外に発信できる集客装置として活用して、国内外からの話題を集め、御堂筋・大阪の魅力を発信する (数値目標) ・テレビ・新聞・雑誌の掲載回数 80回以上 ・Web掲載回数 600回以上</p> <p>◇活動指標(アウトプット) ・「大阪・光の饗宴2017」の開催 ・夜間公演等を実施する事業者に対する補助制度を創設</p> <p>◇成果指標(アウトカム) (定性的な目標) ・御堂筋イルミネーションの中央エリアを圧倒的な光空間を創出する事業として新たに構築し、大阪・光の饗宴の魅力向上を図るとともに、夜間公演等の充実支援などを通じて、国内外からの旅行者の要望が多いナイトカルチャーを発掘・創出する</p> | <p>○御堂筋から未来へ繋がるスポーツとパフォーマンスの祭典として、世界で活躍するアスリートやパフォーマー等による1日限りの豪華共演「御堂筋ランウェイ」を開催(11月) 平成29年度実績 ・テレビ・新聞・雑誌の掲載回数 88回 ・Web掲載回数 560回</p> <p><大阪・光の饗宴2017> ○「大阪・光の饗宴2017」を50日間開催(11月12日～12月31日)</p> <p>○御堂筋中央エリアでの新たな取組として、沿道ビルや施設に静止画プロジェクションマッピングをはじめ、世界で活躍するアーティストによる光のコンテンツや沿道ビルのファサードライトアップなどによる光空間を創出</p> |

・大阪ミュージアム(*6)の推進
大阪ミュージアム登録物を活用して、地域魅力を府内外に発信するとともに、府域への集客・回遊を促す事業を展開する「地域魅力発信事業」を実施する

(スケジュール)

29年5月下旬 プロポーザルによる事業者選定
6月上旬 事業開始
30年3月末 事業終了

(数値目標)

- ・大阪・光の饗宴全体の来場者数 1,350 万人以上
(平成 28 年度 : 1,293 万人)
- ・大阪・光の饗宴として連携実施する民間等の団体数をさらに拡大
17 団体 (平成 28 年度 : 16 団体)

◇活動指標 (アウトプット)

- ・雑誌等への大阪の魅力の掲載
- ・抜き刷り冊子の作成、配布
- ・冊子を活用した集客・回遊事業の実施

◇成果指標 (アウトカム)

(定性的な目標)

- ・府内外への大阪の魅力発信、集客・周遊の向上

(数値目標)

- ・参加者満足度 (よかった、非常によかった)
90%以上

【数値実績】

- ・大阪・光の饗宴全体の来場者数 約 1,367 万人
(前年度比 約 74 万人増)
 - ・大阪・光の饗宴として連携実施する民間等の団体数 19 団体 (前年度比 3 団体増)
- <参考>
- ・経済波及効果 約 673 億円 (前年度比 約 8 億円増)

<ナイトカルチャーの発掘・創出事業>

- 補助制度の具体的な制度設計に対する意見を伺うため、「ナイトカルチャーの発掘・創出にかかる検討会」を設置 (5 月)
- 検討会での意見を踏まえ、「大阪府ナイトカルチャー発掘・創出事業補助金交付要綱」を策定し、事業を公募した (8 月)
 - ・19 事業者が事業計画書を提出 (9 月)
- 検討会から意見聴取のうえ、7 事業に対して補助決定を行った (11 月)
 - ・7 事業者において事業を実施 (～3 月まで)
- 大阪ミュージアム登録物を巡る冊子「大阪ミュージアム 'とっておき' OSAKA 周遊ガイド」を作成し、関西圏で約 157 万部配布〔読売ファミリーに折込〕 (10 月)
 - ・テーマを設定した 6 コース 47 スポットを掲載
 - ・抜き刷り冊子としてタブロイド判 2 万部と A4 判 2 万部を作成。府内の観光案内所や、駅、イベント等でも広く配布
- 冊子を活用した集客及び回遊を促す事業の実施。
 - ・掲載スポットを訪問し、感想等を投稿するとプレゼントが当たる懸賞企画「行って良かった総選挙」を実施 (10 月上旬～30 年 1 月下旬)
 - ・周遊ガイドに掲載されている北河内エリアのパワースポットを巡る「新春ご利益ウォーク」を実施 (30 年 1 月、参加者数 : 805 人 満足度 91%)

文化・スポーツを活かした都市魅力の創出

| <今年度何をするか（取組の内容、手法・スケジュール）> | <何をどのような状態にするか（目標）> | <進捗状況（H30.3月末時点）> |
|--|---|--|
| <p>■国際的なスポーツイベントの開催</p> <p>・ラグビーワールドカップ 2019(*7)の開催準備 大会の認知度向上、大会に向けた機運の醸成を図るとともに、ラグビー・スポーツの街「大阪」を内外にアピールするため、広報・啓発事業を展開する また、平成31年9月の大会に向けた準備を東大阪市と連携しながら進める</p> <p>（スケジュール） 通 年 広報・普及啓発事業 （5月のプール組分け抽選会、10月の試合日程発表の時期に重点的に展開）</p> <p>29年4月～12月 ファンゾーン運営計画策定 29年4月～30年3月 交通輸送計画策定</p> <p>・オリンピック・パラリンピック等の事前キャンプ誘致及びホストタウン(*8)登録の推進 東京オリンピック・パラリンピックに向けた機運の醸成や国際交流、府民のスポーツへの関心や大阪の世界的な知名度の向上を図るため、事前キャンプの誘致やホストタウン登録に係る市町村の取組みを支援する</p> <p>（スケジュール） 29年4月 市町村スポーツ施策推進担当課長会議で再度趣旨説明 8～9月 市町村の国際業務担当者会議、企画担当者会議で再度趣旨説明</p> | <p>◇活動指標（アウトプット） ・トップリーグの試合会場等でのプロモーション活動 20回 ・ファンゾーン運営計画、交通輸送計画の策定</p> <p>◇成果指標（アウトカム） ・府民のラグビーワールドカップ花園開催の認知度 60%以上（28年度：45.9%）</p> <p>◇活動指標（アウトプット） ・市町村の誘致活動の支援件数 20件</p> <p>◇成果指標（アウトカム） ・事前キャンプ誘致の実現 ・ホストタウン登録の追加</p> | <p>○ラグビートップリーグの試合会場等でのプロモーション活動の実施（27回） （その他の活動） ・スポーツ等その他イベントでのPRプロモーション活動（86件） ・デジタルサイネージによる大会開催告知プロモーションの実施（梅田、難波、天王寺、関西国際空港）（5月） ・ウェブ・エリス・カップ特別展示イベントを開催（10月） ・試合日程発表会パブリックビューイングの実施（11月） ・大阪環状線運行車輛へのラッピング及び中吊り応援メッセージポスターの掲出（11～12月）</p> <p>○ファンゾーン運営計画、交通輸送基本計画を策定した</p> <p>○花園ラグビー場での開催に対する府民認知度は、65.2%（2月時点）</p> <p>○市町村の誘致活動の支援件数 29件 ・PRパンフレット「大阪スポーツキャンプガイド」を活用し、在関西総領事館、競技団体等に働きかけ（27件） ・誘致希望のある市町村と総領事館との調整（2件）</p> <p>○事前キャンプにかかるアメリカ水泳連盟の視察受入れ他（2件）</p> <p>○ホストタウンの登録について ・新規登録：箕面市（ニュージーランド） 池田市（ロシア）</p> |

| | | |
|--|--|--|
| <p>通 年 誘致、登録の意向のある市町村の活動を支援（市町村に応じた競技団体や在関西領事館等への働きかけ等）</p> <p>・ワールドマスターズゲームズ 2021 関西(*9)の開催準備大会の認知度向上、大会に向けた機運の醸成を図るとともに、平成 33 年 5 月の大会に向けた準備を府内開催 3 市（岸和田市、東大阪市、泉南市）と連携しながら進める</p> <p>(スケジュール)</p> <p>通 年 府関係イベント等での PR、インターネット等による情報発信</p> <p>29 年 7 月 競技日程作成、組織委員会に提出</p> <p>11 月 競技別実施要項作成、組織委員会に提出</p> | <p>◇活動指標（アウトプット）</p> <p>・イベント等での PR 10 回以上</p> <p>・「WMG2021 関西」HP(府内分)の作成</p> <p>・競技日程、競技別実施要項の作成</p> <p>◇成果指標（アウトカム）</p> <p>・府民のワールドマスターズゲームズ 2021 関西の認知度の向上</p> | <p>・追加登録：泉佐野市(モンゴル)</p> <p>※既登録：大阪市(オーストラリア)、泉佐野市(ウガンダ)</p> <p>○プロスポーツチームとの連携事業や府民スポーツ・レクリエーション事業のイベントにおいて、PR を実施(延べ 91 回)</p> <p>○府 H P 内に「WMG2021 関西」大会のページを開設(6 月)</p> <p>○競技日程案及び実施要綱案について、組織委員会のスケジュールに沿って予定どおり作成し提出</p> <p>○ワールドマスターズゲームズ 2021 関西の府民認知度は、21.2%(2 月時点)</p> |
| <p>■スポーツ都市大阪の魅力発信</p> <p>・スポーツツーリズムの推進</p> <p>府、大阪観光局、プロスポーツチームが連携し、国内外からの観光集客の増加につながる方策を検討し、実施に向けた取組みを進める</p> <p>(スケジュール)</p> <p>通 年 府、大阪観光局、プロスポーツチームの三者による連携事業の検討及び実施（各チームのホームゲームでのイベント実施、各チーム連携ポスターの掲出 等）</p> <p>29 年 5 月～大相撲の主催者と観光商品化について協議</p> <p>・第 7 回大阪マラソン(*10)の開催</p> <p>御堂筋、道頓堀、中之島、通天閣周辺等、大阪のランドマークを 32,000 人のランナーが駆け巡る国内最大級の都市型市民マラソン「第 7 回大阪マラソン」を開催する</p> | <p>◇活動指標（アウトプット）</p> <p>・プロスポーツチームと連携したイベントの実施 5 回以上</p> <p>◇成果指標（アウトカム）</p> <p>・大阪ゆかりのプロスポーツチーム 7 チームの年間主催試合での観客者合計数 300 万人</p> <p>◇活動指標（アウトプット）</p> <p>・第 7 回大阪マラソンの開催（11/26）</p> | <p>○オリックス・バファローズ、阪神タイガース、セレッソ大阪、ガンバ大阪、大阪エヴェッサと連携し、公式戦において体力測定会等を実施したほか、スポーツを大阪の都市魅力として P R(延べ 9 回)</p> <p>その他大相撲なにわ場所においてスポーツを大阪の都市魅力として P R</p> <p>○大阪ゆかりのプロスポーツチーム 7 チームの年間主催試合での観客者合計数は約 280 万人</p> <p>○第 7 回大阪マラソンの開催（11 月）</p> <p>・大阪マラソン参加申込者数 130,417 人（うち海外からの申込者数 13,962 人【海外申込者数前年度比 1.4 倍】）</p> <p>・沿道観客 130 万人</p> |

| | | |
|--|---|---|
| <p>(スケジュール)</p> <p>29年4月 ランナー募集開始</p> <p>6月 公式イベント「大阪マラソンシーズントライアル 2017 10K & ファンラン」開催</p> <p>11月 大阪マラソン EXPO2017 開催</p> <p>公式イベント「大阪マラソンシーズントライアル 2017 ハッピーモーニングラン」開催</p> <p>第7回大阪マラソン開催</p> | <p>◇成果指標 (アウトカム)</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加申込者 昨年度以上 (28年度: 133,861人、うち海外 10,332人) 参加ランナー満足度 昨年度並 (28年度: 国内 95.8%、国外 99.0%) 沿道観客者数 昨年度並 (28年度: 133万人) | <ul style="list-style-type: none"> 大阪マラソン EXPO やチャリティ親子ランなど様々なイベントを展開し、元気あふれる大阪を世界に発信 一般参加ランナー満足度 97.1% 海外参加ランナー満足度 99.0% |
| <p>■オリンピック・パラリンピック等の開催を契機としたレガシーの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> オリンピック・パラリンピアンを小学校派遣 <p>スポーツの素晴らしさや感動を伝えるとともに、スポーツマンシップ等への理解を深め、将来のスポーツ振興、人材養成につなげていくため、府内小学校にオリンピック・パラリンピックの出場経験者を派遣する</p> <p>(スケジュール)</p> <p>29年4~6月 派遣先の募集・決定、オリンピック・パラリンピアンとの調整等</p> <p>7月~ 派遣</p> | <p>◇活動指標 (アウトプット)</p> <ul style="list-style-type: none"> オリンピック・パラリンピアンを派遣する小学校 延べ 18校 <p>◇成果指標 (アウトカム)</p> <ul style="list-style-type: none"> 受講した小学生のオリンピック・パラリンピックに関する興味・関心が高まる | <ul style="list-style-type: none"> ○オリンピック・パラリンピアン延べ 16人を小学校等 15校(1,280人)に派遣(シンクロナイズドスイミング、競泳、バドミントン、バレーボール、ソフトボール、車いすテニス、テコンドー) ○アンケートを実施した小学生のうち、約 84%の児童がオリンピック・パラリンピックに関して興味・関心を持ったと回答 |
| <p>■大阪の文化・食の魅力発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 大阪文化フェスティバルの開催 <p>大阪の都市格の更なる向上にむけて、かつてない新たな都市型の文化フェスティバルを実施することにより、府内全域に多くの観光客を呼び込む</p> <p>あわせて、大阪文化の魅力を発信し、国際エンターテインメント都市の実現を図る。</p> <p>(スケジュール)</p> <p>開催期間: 29年10月1日~31日</p> | <p>◇活動指標 (アウトプット)</p> <ul style="list-style-type: none"> 伝統芸能、演劇、音楽など、府内外のコンテンツを一堂に集め、万博記念公園をはじめ、府内全域で各種公演等を集中的に実施する | <ul style="list-style-type: none"> ○10月を大阪文化芸術フェス月間と位置づけ、万博記念公園をはじめ、府内各会場において、上方伝統芸能、上方演芸、コンサート、演劇、アート等の多彩なプログラムを集中的に実施した ○実施にあたっては、経済界等と実行委員会を設置するとともに、在阪放送局9社と連携し、オール大阪の体制を構築して取り組んだ ・主催プログラム 14件、22公演 ・共催プログラム 8件、28公演 |

・食でおもてなし・多言語メニュー作成支援
飲食店のための多言語メニュー作成支援システムを構築し、多言語メニュー設置店を増やすことにより、外国人旅行者が安心かつ快適に飲食店を利用できる環境を整える

(スケジュール)

29年 春～夏 サイト開設準備

29年 秋以降 サイト開設予定

・芸術文化魅力育成プロジェクト(*11)の実施
大阪にある優れた芸術文化を掘り起こし、磨きをかけて強みに発信するとともに、芸術文化の担い手（若手プロデューサー等）を発掘、育成するため、芸術文化魅力育成プロジェクトを実施する

(スケジュール)

29年 5月 事業者公募

10月～12月 事業実施

・「アーツカウンシル(*12)」からの意見・提言を踏まえ、文化施策の充実を図る
アーツカウンシルによる府文化事業や補助事業の評価・審査等を踏まえ、文化施策の見直しを継続的に行う。
また、アーツカウンシルのあり方について検討を進め、取りまとめる

(スケジュール)

評価、審査等を随時実施

アーツカウンシルのあり方については、年内を目途に取りまとめる

(活動指標等については、■インバウンド受入環境の整備にまとめて記載)

◇活動指標 (アウトプット)

・参加事業者数 5者以上 (平成28年度:7者)

・メディア掲載件数 20件以上
(平成28年度:20件)

◇活動指標 (アウトプット)

・府補助事業の評価 33件 (平成28年度:34件)

・アーツカウンシルのあり方をとりまとめ

○「OsakaCreativeArchipelago」として、10月から2月にかけて、若手プロデューサーの活動拠点（ギャラリー等）を使ったアート作品の制作展示、ライブパフォーマンスなどの「鑑賞プログラム」を5プログラム実施し、延べ2,190人の参加があった

○また、若手プロデューサーが自由に参加できるトークセッション、助成金相談会などの「育成プログラム」5プログラム実施し、延べ433人の参加があった
・参加事業者（若手プロデューサー）数 6者
・メディア掲載件数 62件

○大阪府市文化振興会議アーツカウンシル部会において、府の文化事業や補助事業について評価・審査等を実施
・府の文化補助事業の調査・評価 33件

○アーツカウンシルのあり方については、大阪府市文化振興会議においてワーキング部会を設置し、4回にわたり検討
これまでは文化施策の評価・審査を中心に取組んできたが、今後は調査や企画機能も更に強化し、活動内容の質を高めつつ、積極的に発信する方向性が取りまとめられた。

・上方演芸資料館「ワッハ上方(*13)」の運営による上方演芸の振興
「大阪府立上方演芸資料館資料活用検討委員会」の下、資料整理を実施するとともに、展示事業を実施する。
資料館のあり方について検討を進め、取りまとめる。

(スケジュール)

27～29年度 約6万点の資料の分類作業
29年9月～30年2月 館外展示
※資料館のあり方については、9月を目途に取りまとめる。

◇活動指標 (アウトプット)

- ・登録資料整理の完了
- ・館外展示 3箇所以上 (平成28年度3箇所)
- ・資料館のあり方をとりまとめ

◇成果指標 (アウトカム)

(定性的な目標)

- ・平成28年11月に策定した「第4次大阪府文化振興計画」に基づき、民間の力を最大限に活かし、府民やアーティスト等の自主性、創造性が発揮される都市を目指す。

(数値目標)

- ・大阪の文化的環境が整備されていると思う府民の割合 25% (平成28年度: 23.1%)
- ・府内外から人々が集まり、芸術活動が活発になっていると思う府民の割合 25% (平成28年度: 19.3%)

○登録資料の整理については、資料活用検討委員会資料整理部会において作業を行い、目標どおり収集している登録資料 (53,555件) の整理を完了した

○館外展示については、ワッハ上方を広くPRするため、府内3箇所で「萬歳から漫才へ」と題し、館外展示会を開催

[よしもと漫才劇場]

- ・来場者数: 6,989人
(期間 10月21日～29日)

[大阪工業大学梅田キャンパス「OIT梅田タワー」]

- ・来場者数: 12,197人
(期間: 11月15日～30日)

[府立中央図書館]

- ・来場者数: 44,801人
(期間 1月30日～2月25日)

○資料館のあり方については、現施設を改修し、府民はもとより、国内外の観光客にも演芸の素晴らしさを知っていただくとともに、多くの人々が訪れる魅力的な施設としていくこととした (30年度中に改修工事を行う)

○大阪の文化的環境が整備されていると思う府民の割合 28.9% (2月時点)

○府内外から人々が集まり、芸術活動が活発になっていると思う府民の割合 23.3% (2月時点)

世界有数の国際都市を目指した受入環境の整備

<今年度何をするか (取組の内容、手法・スケジュール) >

■旅行者の利便性向上

- ・Osaka Free Wi-Fiの設置促進
外国人旅行者からのニーズが最も高い通信環境の整備を促進するため、観光コース等を中心とした地域・エリアのWi-Fi環境を集中的に整備する



<何をどのような状態にするか (目標) >

◇活動指標 (アウトプット)

- ・Wi-Fi設置促進に係る補助制度を創設する
- ・宿泊施設における多言語化など、宿泊客の利便性向上のための取組みに対する補助制度を創設する



<進捗状況 (H30.3月末時点) >

○「Osaka Free Wi-Fi設置促進事業」を創設 (7月) し、府内8市町18エリアでの整備に対して補助を実施した

| | | |
|---|---|--|
| <p>(スケジュール)</p> <p>29年5月頃 補助要綱策定 29年6月～ 公募開始、補助金交付決定、補助金の交付</p> <p>・宿泊施設における「おもてなし」環境の整備促進 宿泊施設における多言語化やIT環境の整備など、宿泊客の利便性向上につながる取組みを支援する</p> <p>(スケジュール)</p> <p>29年5月：補助要綱策定 29年6月～：公募開始、補助対象施設の決定、補助金の交付</p> | <p>◇成果指標（アウトカム）</p> <p>（定性的な目標）</p> <p>・旅行者の受入環境を充実させ、旅行者の利便性や満足度の向上を図り、リピーターの確保や府内全域への集客促進を図る</p> <p>（数値目標）</p> <p>・来阪外国人旅行者数：1,045万人 ・延べ宿泊者数：3,275万人</p> | <p>○宿泊施設の案内表示等の多言語化やトイレの洋式化、消防設備の整備を支援する『宿泊施設における「おもてなし」環境整備促進事業』を創設（7月）し、97件（うち取消し4件）について交付決定した</p> <p>・平成29年の来阪外国人旅行者数 1,111万人 （対前年比 118.2%）（再掲）</p> <p>・平成29年の延べ宿泊者数 3,270万人 （対前年比 105.4%）（再掲）</p> |
| <p>■観光案内機能の強化</p> <p>・「トラベルサービスセンター大阪（*14）」の運営 来阪旅行者の多様化するニーズに応えるため、民間が実施するサービスと連携し、観光案内のみならず旅行時のトラブルにも対応するなど、旅行者の利便性向上と安心・安全をワンストップで提供する</p> <p>(スケジュール)</p> <p>29年3月開設（運営継続）</p> <p>・大阪観光（多言語）マップの作成 日本人旅行者を含む多くの来阪旅行者に、自国語若しくは使用言語による観光マップを見ていただくことで、大阪の「おもてなし」精神を伝えるとともに、大阪府内全域をスムーズかつ安心して移動してもらうため、多言語マップを作成・配布する</p> <p>(スケジュール)</p> <p>30年3月発行</p> | <p>◇活動指標（アウトプット）</p> <p>・「トラベルサービスセンター大阪」の円滑な運営 ・多言語マップの発行 ・市町村の観光振興事業を支援する補助制度を創設</p> <p>◇成果指標（アウトカム）</p> <p>（定性的な目標）</p> <p>・旅行者の受入環境を充実させ、旅行者の利便性や満足度の向上を図り、リピーターの確保や府内全域への集客促進を図る</p> <p>（数値目標）</p> <p>・来阪外国人旅行者数 1,045万人 ・延べ宿泊者数 3,275万人</p> | <p>○JR大阪駅構内において運営している「トラベルサービスセンター大阪」を円滑に継続運営した。また、開設時間を7時～23時（従来は8時～20時）に延長するなど、利便性の向上を図る取組みを行い、利用人数も大幅に増加した</p> <p>・利用人数（4～2月） 日本人 135,030件 外国人 154,724件</p> <p>・利用件数（4～2月） 日本人 228,865件 外国人 307,958件</p> <p>○府域の観光情報を掲載した大阪全体の観光マップを6言語（7種類）で作成し、観光案内所や在関西領事館などで配布するなど、旅行者の誰もがスムーズかつ安心して移動してもらえるよう、利便性や満足度の向上を図った</p> |

| | | |
|--|--|--|
| <p>・市町村における観光振興の支援 観光案内板や観光公衆トイレの設置等、市町村が実施する旅行者の受入環境整備事業を支援する</p> <p>(スケジュール) 29年5月頃 補助要綱策定 29年6月～ 公募開始、補助金交付決定、補助金の交付</p> | | <p>○市町村の実施する、多言語による観光案内板や観光公衆トイレの整備などを支援する「市町村観光振興支援事業」を創設（7月）し、11市町村の19事業について交付決定した</p> <p>・平成29年の来阪外国人旅行者数 1,111万人 （対前年比 118.2%）（再掲）</p> <p>・平成29年の延べ宿泊者数 3,270万人 （対前年比 105.4%）（再掲）</p> |
| <p>■インバウンド受入環境の整備</p> <p>・観光施設等の国際化支援 府内の観光施設等における案内表示の多言語化などの施設整備を支援する</p> <p>(スケジュール) 29年5月 補助要綱策定 29年6月～ 公募開始、補助対象施設の決定、補助金の交付</p> <p>・食でおもてなし・多言語メニュー作成支援（再掲） 飲食店のための多言語メニュー作成支援システムを構築し、多言語メニュー設置店を増やすことにより、外国人旅行者が安心かつ快適に飲食店を利用できる環境を整える</p> <p>(スケジュール) 29年春～夏 サイト開設準備 29年秋以降 サイト開設予定</p> <p>・外国人旅行者の安全確保 来阪外国人旅行者が急増する中、「新・大阪府地震災害アクションプラン（平成27年3月策定）」に基づき、外国人旅行者の安全確保に向け、情報提供の強化とともに、現場における支援体制の構築を図る</p> | <p>◇活動指標（アウトプット）</p> <p>・観光施設等における多言語化など、外国人旅行者の利便性向上のための取組みに対する補助制度を創設する</p> <p>・府内の飲食店等が日本語のウェブシステムを利用し、多言語メニューを作成できるとともに、外国人旅行者が多言語メニューを置く飲食店を検索できるサイトを構築する</p> <p>・緊急時お役立ち情報ポータルサイトの周知継続、内容の充実を図り、外国人旅行者に対する情報提供を強化するとともに、28年度に作成した支援フロー（案）を更新し、マニュアルとしてまとめることにより、観光関連事業者の役割分担等を明確化し、外国人旅行者が安全に帰国するまでの支援体制の構築を図る</p> | <p>○府内の観光施設等における多言語化等の取組みに対する支援については、市町村観光振興支援事業補助金のメニューの中で実施し、外国人旅行者の利便性向上を図った</p> <p>○府内の飲食店事業者が、最大14言語（15種類）でメニューを作成できる「多言語メニュー作成支援システム」を構築し、飲食店向けサイトを開設した（2月）</p> <p>○緊急時お役立ち情報ポータルサイトを紹介する広報カードを府内観光案内所や関西総領事館等に配布した（30年2月）</p> |

(スケジュール)

29年10月頃 ポータルサイトの充実
～30年2月頃 市町村等が参加するワークショップの
開催・支援フロー（案）の更新
30年3月 外国人旅行者安全確保マニュアル
（仮称）の作成

◇成果指標（アウトカム）

（定性的な目標）

- ・旅行者の受入環境を充実させ、旅行者の利便性や満足度の向上を図り、リピーターの確保や府内全域への集客促進を図る。
- ・災害情報を入手しやすい仕組みづくりとともに、災害時の円滑な支援体制を構築し、外国人旅行者が安心して旅行できる環境づくりをめざす

（数値目標）

- ・来阪外国人旅行者数：1,045万人
- ・府内飲食店のシステム登録数 2500件
（府内飲食店の5%以上）

○外国人旅行者が安全に帰国するまでの支援体制構築に向け、大阪市北区において、ワークショップを開催した（12月、30年2月）。さらに国の機関、学識経験者、在関西総領事館の意見を踏まえ、支援フロー（案）を更新するとともに、観光関連事業者向けの外国人旅行者の安全確保・帰国支援ガイドラインを策定した

・平成29年来阪外国人旅行者数：1,111万人
（対前年比 118.2%）（再掲）

【部局長コメント（総評）】



自己評価

ほぼ達成

<取組状況の点検>

■ 世界第一級の文化・観光拠点形成・発信

当初の目標を、ほぼ達成することができました。

- ・水と光のまちづくりの推進について、舟運創造推進事業の実施など、公民共通のプラットフォーム「水都大阪コンソーシアム」による魅力ある舟運やにぎわいの創出につながる取組みを進めました。また、舟運拠点整備の検討や水辺のにぎわい空間の創出のための施設整備等を行いました。
- ・太陽の塔耐震工事をを行い、また内部公開に向け、積極的な広報 PR 及び記念イベントを実施した結果、多くの来館者により活況を呈しています。
また、万博記念公園自然文化園への入場者数増加に向けた取組みについては、太陽の塔の内部公開を含め、様々な集客策等に取り組んだ結果、当初の目標には及ばなかったものの、前年度を上回りました。
- ・百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録に向けては、地元や首都圏における機運醸成を図るなどの取組みを進め、平成 29 年度の国内推薦候補に決定しました（7 月）。また、平成 30 年 1 月には、ユネスコに推薦書を提出しました。
- ・「大阪ストーリープロジェクト事業補助金」を創設し、地域における観光資源の磨き上げや受入環境の整備等を支援しました。
- ・御堂筋オータムパーティーについては、世界で活躍するアスリートや国内外で活躍するアーティストが参加して、話題を集め発信力あるイベントを行ったことにより、大阪の魅力を国内外に広く発信することができました。
- ・民間等が実施するプログラム（エリアプログラム）と連携を図り、「大阪・光の饗宴 2017」を実施しました。府内で光のプログラムを実施する団体に光の饗宴との連携を働きかけ、目標を超える 19 団体との連携を達成しました。
光の饗宴全体の来場者数についても、前年比約 74 万人増（目標比約 17 万人増）と目標を達成しました。

<今後について>

■ 世界第一級の文化・観光拠点形成・発信

- ・公民共通のプラットフォームを活用して、舟運活性化や水の回廊の魅力を支える機能の維持・創出に向けた取組みなどを進めます。また、さらなる舟運拠点整備に向けた調査・検討を行います。
- ・「太陽の塔」については、70 年万博のレガシーとして、継続的な PR や企画展の開催などに取組みます。
平成 32 年度の目標 300 万人達成に向け、指定管理者とともに、取組みを進めます。
- ・平成 31 年度の世界文化遺産登録に向けた取組みを、堺市、羽曳野市、藤井寺市とともに、外務省、文化庁と協議しながら進めます。
- ・補助事業の実施により、府域への誘客に取り組めます。魅力づくりや受入環境整備に取り組む市町村等を引き続き支援します。
- ・平成 30 年度も引き続き、発信力あるイベントを実施し、大阪の魅力を国内外に広く発信します。
- ・「大阪・光の饗宴 2018」を実施、冬の大阪を光で盛り上げます。連携して事業実施する団体については市町村との連携を更に図り、一層の府域連携の拡大に取り組めます。

・「大阪府ナイトカルチャー発掘・創出事業補助金」を創設し、夜間公演等に積極的に取り組む事業者を支援しました。

・大阪ミュージアムの魅力的な登録物を掲載した冊子を広く配布・活用し、多くの方に大阪の魅力を伝えることができました。

■文化・スポーツを活かした都市魅力の創出

当初の目標を、ほぼ達成することができました。

・大阪文化芸術フェスを開催し、上方伝統芸能や演劇、アート等の多彩なプログラムを集中的に実施し、大阪文化の魅力を内外に発信しました。

・芸術文化魅力育成プロジェクトによる芸術文化の担い手育成、アーツカウンスルによる府文化施策の評価、上方演芸に関する資料整理や展示事業を実施するなど、大阪の文化振興につながる取り組みを行いました。

・ラグビーワールドカップ 2019 の開催に向けての広報・普及啓発事業やオリンピック・パラリンピック等事前キャンプ誘致、ホストタウン登録に係る市町村の取り組みに対する支援、ワールドマスターズゲームズ 2021 関西の開催に向け府内開催 3 市と連携した準備の実施など、国際的なスポーツイベントの開催に向けて取り組みを進めました。

・第 7 回「大阪マラソン」の開催や、プロスポーツチームと連携してスポーツを大阪の都市魅力として PR する等、スポーツツーリズムを推進しました。また、スポーツの素晴らしさや感動等を伝えるため、オリンピック・パラリンピアン府内小学校派遣を実施しました。

■世界有数の国際都市を目指した受入環境の整備

当初の目標を、ほぼ達成することができました。

・宿泊税を活用した、Osaka Free Wi-Fi の設置促進、宿泊施設における環境整備、市町村観光振興にかかる補助制度を創設し、受入環境の充実を図りました。

・また、トラベルサービスセンター大阪の運営、多言語観光マップの作成、多言語メニュー作成支援サイトの開設等により、旅行者の利便性向上を図りました。

・関係省庁、在関西総領事館等、府内市町村、観光関連事業者との意見交換を通じて、災害時に外国人旅行者が安全に帰国するまでの支援フロー（案）の充実を図るとともに、宿泊施設等の事業者向けガイドラインを策定しました。

・補助事業の実施により、ナイトカルチャーに取り組む事業者を引き続き支援し、旅行者が楽しめる大阪の夜のコンテンツの充実に取り組みます。

・引き続き、様々な媒体を通じて大阪ミュージアムの登録物をはじめとする魅力的なスポットを発信し、府域への集客、周遊の促進に努めます。

■文化・スポーツを活かした都市魅力の創出

・文化施策については、「第 4 次大阪府文化振興計画(平成 28 年 11 月策定)」に基づき、「文化自由都市、大阪」の実現を目指し、引き続き、その実現に向けた取り組みを着実に推進してまいります。

・スポーツ施策については、「第 2 次大阪府スポーツ推進計画」(平成 29 年 12 月策定)に基づき、生涯スポーツの振興を図るため、様々な事業を展開するとともに、第 8 回「大阪マラソン」開催、ラグビーワールドカップ 2019、東京 2020 オリンピック・パラリンピック、ワールドマスターズゲームズ 2021 関西の開催に向け、引き続きスポーツを通じた大阪の都市魅力の発信に取り組みます。

■世界有数の国際都市を目指した受入環境の整備

・旅行者の受入環境をさらに充実させることで、今後も増加が見込まれる来阪外国人旅行者をはじめとする旅行者の利便性や満足度の向上を図り、リピーターの確保や府内全域への集客促進に努めていきます。

・今年度策定した支援フロー（案）とガイドラインを活用して、府内の市町村・観光関連事業者への周知啓発を行い、外国人旅行者の安全確保をさらに推進してまいります。